

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第44号 [2012年7、8月合併号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第44号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃ってきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

## <目次> [ページ]

[JAMのfacebook もよろしくお願ひします](#) [2]

[メソトマンスリー](#) [2]

[国内から](#) (田畠 彩生) [5]

・ [トランペット、移民学校の学生さんのもとへ](#)

[国際保健医療協力のなかで](#) (17) (小林 潤) [6]

[編集後記](#) [7]

[次号の予定](#) [7]



JAMのfacebook もよろしくお願ひします



Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索してください。

このロゴが目印です。

まだ、使いこなせていないのですが・・・少しづつ、いろいろ書き込んでいきます。

ぜひ、「いいね！」を押してみてください。  
よろしくお願ひします。

メソトマンスリー

## きょうのゆめ

【メソト=前川 由佳】



ある日、クリニックのオフィスでパソコン作業をしていると、やたら視線を感じました。

視線を辿ってみると、そこには窓からじーっとこちらを見つめる女の子の姿が。  
そう、彼女が今回の主役チャイトオーちゃん、10歳です。

1ヶ月前、お母さんと一緒にモン州からクリニックへ来ました。お母さんはすい臓が悪いので、チェンマイ大学で治療を受けることになりました。チェンマイに行くまでもう少し待つのだそう。



将来の夢は、学校の先生。  
小さい子たちに、いろんなことを教えてあげたいんだっ。

いつも年下のふたごちゃんを引き連れて、クリニック内で元気いっぱいに遊んでいるチャイトオーちゃん。  
立派なお姉さん役であり、先生役の彼女。  
きっと遊びながらもいろんなことを教えてあげてるんだね。

どんなことを教わってるのかなあ…気になります。

写真左がチャイトオーちゃん。右はいつも一緒にいるふたごちゃんの一人です。





## スタッフの決断

【メソト=前川 由佳】

6月末、クリニックの財政難が発表されると共に今後の方針が全スタッフに伝えられました。

“医療の提供”を第一優先としたクリニックの対応策に、スタッフたちも自身の生活がかかった決断を迫られています。150～200人の人員削減。クリニックでは12月までを目処に希望退職者を募っています。

現段階で60名ほどのスタッフが退職表明をしているそうです。彼らの多くは自分の村に戻るのではなく、生活を支えるため少しでも高い給料を求めバンコクなどへの移住を決めています。新たな職は、いち労働者として工場で働くこと。

メータオでなくとも、カレン州かタイのどこかで今みたいに医療に関われる仕事、ないかな。

数々のトレーニングを受け知識を養い、様々な患者を診て経験を積んできたクリニックスタッフ。この仕事にやりがいも責任も感じています。まだこの土地には医療が必要なこともあります。そして医療で人々を助け続けたいと思っています。わかっているながらも選択せざる終えない現状に、どれほどの迷いと葛藤があったのかと想像するほどに胸が痛みます。

20年もの間、カレン族のみならず少数民族の医療を支えてきたのは、ほかでなくメータオクリニックスタッフたちなのです。この先進んでいくだろうカレン州の医療整備。信頼関係においても、医療人材としても、彼らの存在なくして成し得るのでしょうか。彼らの重要性を分かっていながら、ただ去り行くスタッフを見送ることしかできないことに悔しさと焦りすら感じています。

## ビルマの民主化と メータオ・クリニックの移り変わり

【メソト=梶 藍子】

メータオ・クリニック支援の会事務局の梶 藍子です。

現在、米国の公衆衛生大学院に籍をおき、メータオ・クリニックで医療従事者の結核を中心とした院内感染についての調査をしています。

私は2007年から2009年までクリニックの国際ボランティアスタッフとして2年間活動していました。初めてメータオ・クリニックを訪れた時から早5年が経ちます。

メータオ・クリニックを訪れるビルマから来る患者さんは後を絶たず、2007年度の総外来患者数114,842名に対し、2011年度の総外来患者数は150,904名と総外来患者数は4年間で約4万人と増加しています。

ウンサウン・スチー氏が今年4月の国会補欠選挙で勝利するなど、ビルマ民主化への国際社会の期待が高まる一方で、メータオ・クリニックは現在、財政難から運営の危機に直面しています。今年必要な予算の約30%（約1800万バーツ。日本円にして約5000万円）が不足しています。



財政難の大きな一つの理由としては国際社会がビルマ国内へ投資をはじめ、タイ・ビルマ国境で以前まで支援していた国際NGOがクリニックへの支援を延期、縮小または中止したことなどが原因です。この支援の滯りの裏には「ビルマの民主化からメータオ・クリニックを必要とするビルマの難民、移民がビルマ国内に戻れるのではないか?」という思いが隠されているかもしれません。

しかし、現実的にビルマ国内へ難民、移民が無事に帰還するためには様々な課題が残されています。

ビルマ国内に住む5歳以下の乳幼児の40%が発育不良であり、人口5000万人のうち30%の国民が貧困ライン以下の生活を強いられています。2007年に実施された米国のジョンホブキンス公衆衛生大学院の調査によると、5歳以下の乳幼児死亡率(出生1000人あたりに対する)は218という結果が報告されました。

つまり、東ビルマ地域では5人に1人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができません。

健康問題の原因には、政府の年間予算のうち、医療費はわずか3%しか割り当おらず、その多くの予算は軍事費に当てられていることが一つの理由として言えます。国民は医療費のおよそ85%を自費で負担しています。また国内の移動制限から病人は簡単に医療機関へ通うことができません。

政治改革は進むものの、少数民族への弾圧、人権侵害、健康問題などの問題は外部からのモニタリングもなく今まで取り残されてきました。長期間にわたる民族紛争、強制移住により住居を失った難民の数は何万人といいます。インフラストラクチャー、住居の整備、地雷の撤去という戦争の爪痕への対応はまだなされていません。

真のビルマ民主化のためには、社会の主流から取り残された人々の健康問題解決なしには達成できません。メータオ・クリニックが存在する必要性がなくなるその日まで、クリニックは無料の診療を提供し続けるだろうと思います。

#### 参考文献

Burma: health and transition. The Lancet, Volume 379, Issue 9834, Page 2313, 23 June 2012.

<http://www.thelancet.com/journals/lancet/article/PIIS0140-6736%2812%2960998-2/fulltext>



(写真) クリニックの受付。診療を待つ患者さんの長蛇の列。



国内から

## トランペット、移民学校の学生さんのもとへ

【東京=田畠 彩生】

皆様、メータオ・クリニックや国境地域へ関心を寄せて下さり、ありがとうございます。  
また、継続したご支援を賜り誠にありがとうございます。

この度、6月末日で日本の病院を退職し、7月よりメータオ・クリニックの外科病棟にて活動させて頂くこととなりました。応援して下さったJAM会員の皆様、家族や学生時代の先生、NCGMの先輩、大切な友人の皆様、本当にありがとうございます。

メータオ・クリニックでの活動は、看護学生時代からの目標でした。今はその日を前に喜びと共に不安と緊張の入り交じった気持ちです。

国境の人々とご支援頂く皆様の思いをつなぎ、そこに交流が生まれます事を願い、私はその架け橋として「国境での活動を日本や世界の皆様へ」、「皆様の思いを国境へ」つなげられる事を目標に活動して参ります。国境での活動や現地の「今」をfacebookを通じて報告させて頂きます。至らぬ点が多く反省ばかりの毎日ですが、何とぞこれからも、よろしくお願ひいたします。

さて、国境地帯の移民学校では、学校での課外活動の一環として、プラスバンド活動が始まっております。この課外活動は、学生の皆さんとのメンタルヘルスへ音楽を通してアプローチし、精神的な充実をはかる目的も担っています。

現地の移民学校の学生皆さんからの願いが届き、日本各地や小中学校よりトランペットなどの楽器が多数集まりました。今回は使用可能なトランペット11本を調整させて頂き、移民学校へお届けにあがります。

下記の写真は、これから学生さんの元へと向かうトランペットたちのほんの一部です。また、国立国際医療研究センターの先輩のご協力を頂き、上記トランペット以外にもソプラノリコーダーが120本、ピアニカ、ハーモニカ、カスタネットなどをご提供いただきました。ありがとうございます。

移民学校の学生さん同様、私も小中学生の頃は学校のプラスバンド部、トランペットパートに所属しておりました。小学生の頃、学校からお借りしたキラキラ目映いトランペットやコルネットを前に息をのんだ事を覚えています。皆で奏でる音楽との素敵な出会いがあり、今でも楽しい思い出のひとつとなっています。仲間と助け合い、音楽を通して一丸となる充実した貴重な時間でした。お預かりした大切なトランペットを洗浄させて頂きながら、長年吹かれてきた愛着ある楽器とその演奏者の皆様、国境の学生さんの笑顔を思い浮かべていました。



国際保健医療協力のなかで (17)

【東京=小林潤】



ビルマ（ミャンマー）が民主化を進めている。

メータオクリニックもこの動きに賛同すること正式に声明をだした。

しかしながら、メータオクリニックの必要性は当分の間、変わらないことは明らかである。おそらく政治的難民・移民は減るであろうが、経済的難民・移民は減らないどころか増加する危険性を含んでいるからだ。

第一に、民間セクターからのヤンゴン・マンダレー等の大都市周辺への投資は現在すでに沸騰しており日本でも報道が盛んにされている。これらの地域の雇用は進み、貧困層の収入も改善されるだろう。

第二に今まで特定国と特定の分野に制限されていた先進各国からの開発援助も大きく進むだろう。すでに日本からの援助も増大している。これは農業・工業支援といった経済に直接関連する分野だけでなく、日本が絶え間なく進めてきた保健・教育の分野の支援も大きく増大し、他欧米ドナーの介入も期待される。しかし、カレン族等の少数民族が多く住む地域への住民の生活に影響するかというと、残念ながら少なくとも5-10年都いった期間をみなければいけないと考えている。

カンボジア・ラオス・ベトナムが20年前に開発援助を受け入れ始め、現在では国全体では経済・保健・教育の分野で大きな改善を示している。しかしながら、貧困僻地はいまだ多くの課題を占めていることからみても、これら貧困僻地に特化した政策を実施しても相当な時間がかかると考えられるからだ。

しかし、さらに恐ろしい現実が待っているのかもしれない。

国が急激な経済成長をしていく過程で域内各国の貿易振興による経済成長のネットワークに組み込まれる。このために多くの品目についてかけられる関税が少なくなっていく政策がとられるだろう。これにより、国の収入全体は増加して産業も振興される。

しかしながら、落とし穴があるともいえるのだ。ある経済学的な分析によれば、貧困僻地の住民の貧困は改善されるどころかさらに悪化するという結果が導きだされるというのだ。カンボジア・ラオスでおそらくその影響ではないかという現実も、筆者自身、見てきている。経済格差は明らかに増大し、貧困対策の政策は実施されるが優先順位としては低くなってしまい、さらなる貧困を増大させてしまっている場面もあるのかもしれない。

メータオクリニックの必要性は経済難民の増大のリスクから変わらないだろう。

しかし、ドナーの注目がビルマ国内へ動き、支援が大幅に減っている。存続のために、すでに人材のリストラが開始された。これら必要な経営改善は進めなければならないだろうが、経営基盤はドナーからの支援に頼っているために経営危機は改善されない現状が今後とも続いてしまうとも危惧されてしまう。



## 編集後記

国際線のCAをしているお友達から、タイのおみやげでNaRaYaというメーカーの小物をもらいました。お化粧直し用のポーチと、ちょいおでかけ用のミニバッグ。

バンコクへのフライトだったんだそうです。かっこいいー(>\_<)

キャビンアテンダントさんの間でここの大かばん（黒）を出勤かばんにするのが流行っているのだそうです。1泊程度のお泊り旅行かばんにちょうどよいらしい。

現地で買うと、日本で買うより断然お買い得なんだそうです。

縫製もしっかりしていて、使い勝手もいい感じです。

女子向けのお土産には、幅広い年代に受けがよさそうです。

タイに行く機会があれば、ぜひ、一見の価値があるお店なようですよ。



## 次号の予定

今月号は、合併号のため、次号のJAMの会報は、9月中～下旬ごろ発行の予定です。  
ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

◇◆◇  
メータオ・クリニック支援の会 Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)

日本事務局宛て E メール : support@japanmaetao.org

ホームページアドレス : [www.japanmaetao.org](http://www.japanmaetao.org)

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。

◇◆

